

# まんだら通信

第148号 (通巻180号)

平成20年(2008)10月 佛誕2574年

295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084  
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 高橋 龍渉  
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺  
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040  
<http://www.shiunji.org/>  
[post@shiunji.org](mailto:post@shiunji.org)

## お寺をもっと

以前探し物をしていった時、須弥壇の下から色々の反古が出てきました。

江戸時代終わり頃のものですが、メモなどに混じって俳句の運座(今風に言うと、定例俳句会ですね)の記録もありました。

集まった人の名前を見ると、お金持ちだけではなく、極く普通のお百姓さんや職人さんもいます。昔は一般の人はみんな貧しく、食うことに精いっぱいだったと、よく言われますがそうではなかったのです。

紫雲寺だけ特別そうだったのではなく、例えば塩浦の宝泉寺さんには、今はなくなつたそうですが俳句の絵馬が掲げてありました。

寧ろ昔の方が、みんなの気持ちにゆとりがあった証拠、ととってもいいでしょう。



紫雲寺の代々のお墓のうちで、一番立派なのは、明治三十七年一月に遷化した、中興第三十世の盛璇(下の字は手偏です)和尚のものですが、生まれは小塚大師近くの尾場の早川孫右衛門家で、これに因んで『おんば方丈』と呼ばれていたそうです。

私がお寺に弟子入りした頃は、直接知っているお年寄りが健在で、「背が高く、おれたち子供にはおつかねえ方丈さまだったけど、お客さんが好きだと見えて、いつも誰かが遊びに来てたっけ。」と話していました。

私も憶えています。庭に豊後梅の古木があつて、とても大きな実がつきました。この梅干しをお茶請けに出すのだそうです。余りの大きさに、お客さんが手を出さずに帰ると、次に行った時また同じ梅干しが出てきて閉口した、などという話も残っています。

宝泉寺さまの前のご住職(私の師僧に当たります)に、生前聞いた話ですが、昔、村の寄り合いで話がつれ、にっちもさっちも行かなくなると、「方丈さまあ、一つ頼みます。」と声がかかるのだそうです。

方丈さまが衣に袈裟という正装で、みんなが集まっているところに出かけ、どっかりと座ると、お互いに我を張ることをやめて、丸く治まることになっていったそうです。

ほんの一例を挙げましたが、産まれた子供の名付け親、夫婦や親子、隣近所の大小のいさかいの仲裁など、お寺の果たしたことは小さくありません。

今まで話したことはありませんが、夜分に來られて家族の不始末を洗いざらいぶちまけて、すっきりした気分が帰った人も一人や二人ではありませんし、お寺から、人に知れないようにお葬式の費用を出したお家もあります。

このように、お寺はよろず相談窓口であつたし、今でも変わっていないということが言えます。

現在、公の機関がそれこそかゆいところに手が届くように、問題に応じて沢山の窓口を開いています。

裁判所、警察署、学校、病院、お役所、社会福祉協議会、消費者センターと数え上げればキリがないほどです。

でも、休みの日や時間外は受け付けませんし、何よりも相談に乗ってくれる人を見ず知らずの人では、型通りのことしか話せませんね。

私も、長い間『心配ごと相談』に関わっていましたから、この辺りのことは良く分かります。人の悩み事が星の数ほどあるということは、毎日の新聞の社会面が証明していますし。

お寺とお檀家の間は家族と同じです。少なくとも紫雲寺では、三六五日二四時間、いつでも遠慮は要らないのです。お金の無心だけは、これだけはもう、こちらがしたい方ですから困りますが。

## 余滴

◆上の写真。30年前に写した古い庫裏で、昭和の初め島崎の棟梁勘七さんが3,000円で請け負って作って下さったものです。当時、どこのお寺より立派な建物だったそうです。

◆旧和田町海発(かいほつ)にお住まいの方から戴いた手紙に、「今月は我が家が年に一度の伊勢講の「宿」ですが、平日なので数時間の休みを貰ってお接待をします。正直に言うと億劫な気もありますが、仕来りなので準備します。周りの地区では、やめたり休んだりというところもあるようですが、集まる皆さんの笑顔を見るのも楽しいことなので。」とありました。そう言えば

なくなつたものは他にもありますね。『おびしゃ』『疱瘡篋』など。近頃は念仏講も、跡継ぎがないという理由で消滅したところも多いようです。葬式も、斎場で執り行うことが多くなりました。

念仏講は、高野山・善光寺・東大寺などの復興資金を集めるため、諸国を回っていた聖(ひじり)といわれる人たちが、勤めて組織した講でした。

幼児の死亡率が高かった時代ですから、我が子を亡くした母親がその冥福を祈るために集まって唱えたのが始まりといわれます。

「今夜は念仏講だから」と、姑に言えば、むげにダメとは言えなかつたでしょう。

お念仏で心が軽くなったあと、四方山話で憂さを晴らすという効果も大きかったと思います。何でも総て残すべしとは言いませんが、集まる機会が少なくなることで、隣近所の心の結びつきが弱くなるのが心配です。既に都会の話ではなくなってきていますし。

◆今月の野草は【ヒヨドリバナ きく科ヒヨドリバナ属】です。山の縁などに咲き始めています。丈は60cm~1メートルほど。フジバカマに似ていますが、葉の形と花の色が違いますね。ヒヨドリが来る頃咲くからという、何とも素っ気ない名前のつけ方です。

2008/10/09 龍渉

